

福井大・原子力安全工学コース 3年生 学び拠点敦賀に

学科再編により2016年4月に新設された福井大工学部機械・システム工学科の原子力安全工学コースの授業が9日、敦賀市鉄輪町1丁目の敦賀キャンパス(同大附属国際原子力工学研究所)で始まった。3年生25人が学びの拠点を福井市から敦賀へ移し、原発立地自治体ならではの実践教育を受ける。市は家賃補助などの受け入れ態勢を整え、地域活動への若手参画などに期待を寄せ



実践教育授業を開始

市、定住促進へ家賃補助

同大は丁寧な基礎教育リキキュラムを提供しよう。バス(福井市)で共通科を学部レベルから実施と同コースを新設した。目など基礎教育を受講し、廃止措置を含めた力。2年時までは文京キャンパス配属が決まる3年

開講した必修科目を受講する福井大工学部機械・システム工学科原子力安全工学コースの学生10日、敦賀市の同大敦賀キャンパス

時以降は敦賀キャンパスで専門性の高い実験や研究に加え、炉心制御のシミュレーションなど原発や関連施設を活用した実習が組み込まれる。ネット回線を使ったテレビ会議システムを導入し、実験を伴わない授業については文京キャンパスでも受講できるという。

同コースの定員は25人で、大学院生を含め最大100人程度の学生が市内に通学、在住する。受け入れを前に市と同大は昨年9月、相互発展や地域振興に関する包括的連携協定を締結。学生のまちづくりへの参画など、

どの分野で協力する。市受けられるのでありがたい。は本年度、進級に伴い市内へ移住する同コースの3、4年生を対象に、「移住定住促進事業」として家賃の2割(最大1万円)と引越費用1万円を支給する。

10日は必修科目が開講。現在は数人だが、4年進級時には約半数が敦賀市への転居を予定している。同コース長の桑水流理教授は「敦賀キャンパスにある最新の実験器具が活用できる。立地自治体の認識や雰囲気を感じ取ることも重要」と敦賀で学ぶ強みを話す。

福井市から通っている中島基行さん(20)は「実験は週2回。きれいなキャンパスで学べるので不便は感じない」という。福井市のアパートから敦賀市へ引越した藤原卓真さん(21)は「市の補助が

受けられるのでありがたい。は本年度、進級に伴い市内へ移住する同コースの3、4年生を対象に、「移住定住促進事業」として家賃の2割(最大1万円)と引越費用1万円を支給する。